

# はばたきプラン

「できることから創（はじ）める」をキーワードに、施設分離型からスタートした本市の小中一貫教育。  
小中一貫教育の手法を導入して10年目となる平成27年度は、次のステージへ、新たな一歩を踏み出します。

小中一貫教育導入以前の八潮市は、長年にわたり「基礎学力の定着が十分でない」、「不登校児童生徒が多い」等、学校教育上の課題が解決されない状況が続いていました。

これらを解決するために、「**小中一貫教育の手法**」を導入しました。

## 小中一貫教育で目指すもの

『**学力の向上**』  
基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ力を育成

『**豊かな心の育成**』  
異学年交流の充実や、不登校の解消

小中学校をつなぎ、義務教育9年間にわたる連続性・系統性を大切にしながら、子どもたちを育てていきます。

八潮市は、平成18年度に内閣府から「構造改革特別区域計画（八潮市小中一貫教育特区）」に認定（平成20年度より教育課程特例校）され、市内全小中学校（小学校10校、中学校5校）を小中一貫教育研究校として指定しています。これまで、中学校を中心とした5つの研究ブロックに分け、子どもたちの「学びをつなぐ」ためにブロックごとの特色を活かしながら様々な取組を行ってきました。

その結果、「学びをつなぐ」ことについて教職員の意識が高まり、基礎学力の定着や不登校児童生徒、非行問題行動の減少等に一定の成果が見られるようになりました。

平成27年度は、八潮市小中一貫教育がこれまでの教育課題を解決する一つの手法として導入して以来10年目を迎えます。

## 「学びをつなぐ」から「学びを結ぶ」へ

平成27年度は、小・中学校9年間のつながりをより太く、強固に結び、小中一貫教育のさらなる深化・充実を図るため、重点テーマを【子どもたちの未来を彩る小中一貫教育 ～学びを結ぶ 次のステージへ～】と新たに設定しました。これからも、「学力の向上」と「豊かな心の育成」を目指し、取り組んでいきます。

平成 18 年度

平成 19 年度

平成 20 年度

全般

■内閣府から「構造改革特別区域計画（八潮市小中一貫教育特区）」に認定(H20 年度認定取り消し)

これにより、本市独自の教育課程(えらべる科、ふるさと科、英語活動)を実施することが可能になりました。

特長①

ハード面(施設一体型の小中一貫校の建設や小中学校の統廃合など)ではなく、ソフト面(教育内容の見直し・充実、指導方法の工夫・改善)からのスタート!

■学校教育審議会の設置・諮問(～H21 年度)

学校教育審議会を新たに設置し、『構造改革特別区域計画(八潮市小中一貫教育特区)認定に伴う八潮市小中一貫教育の在り方について』諮問を行いました。

構成員は、大学教授や PTA 会長、町会・自治会長、学校長など 15 名で、平成 21 年度までの 2 年にわたり審議いただきました。

■小中一貫教育推進特別委員会を設置(～H21 年度)

市議会に特別委員会が設置され、議員による調査・研究が実施されました。

■文部科学省から「教育課程特例校」に承認(H22 年度指定廃止)

教育特区が全国展開されたことにより特区の認定が取り消され、新たに文部科学省から教育課程特例校として承認されました。

特例校とは、学校または地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校です。

その後、平成 23 年度の新学習指導要領の全面実施に伴い、平成 22 年度に特例校の指定も廃止され、現在は新学習指導要領の趣旨に則り、実施しています。

推進体制  
・  
研究指定

教職員が検討部会の構成員となって、学力向上や豊かな心を育む具体策について研究を進めています。

■小中一貫教育推進準備委員会を設置

小中一貫教育の研究がスタートし、「学校生活部会」、「交流活動部会」、「教育課程部会」の 3 部会で検討が始まりました。

特長②

新規事業や取組の見直し・検討など、小中教職員からのボトムアップで推進!

■小中一貫教育推進準備委員会での検討

「英語活動部会」、「えらべる科部会」、「ふるさと科部会」で、指導計画例や教材例を検討し、作成しました。

■5校へ研究委嘱(～H21 年度)

潮止小、松之木小、八潮中、八條北小、八條中に小中一貫教育の研究を委嘱し、特区による教育課程を段階的に導入しました。

■各部会での検討

「教育課程連携部会」では教育課程や委嘱校の連携、「学力向上連携部会」では八潮 Basic、「学校生活連携部会」では生活・学習ガイドについて検討を行いました。

■10校へ研究委嘱(～H21 年度)

市内 10 校に研究委嘱を行い、これにより、全小中学校 15 校で 5 中学校ブロックでの連携、研究がスタートしました。

保護者・地域

保護者や地域の方々にご理解とご協力をいただきながら小中一貫教育を進めています。

■小中一貫教育の説明会・講演会を実施

保護者や地域の方々、小中一貫教育について理解していただくために、導入の経緯や趣旨、内容等について、説明会や講演会を実施しました。

■はばたきプランの作成

保護者・地域向けのリーフレットを、毎年、作成し、取組について周知しています。



H20.3月発行

■相互授業参観

保護者に小中学校の特色を理解していただくために、八條中と八條北小で相互の授業参観を行いました。



H21.3月発行

データで見る  
小中一貫教育

きめ細やかな教育を実践するため、様々な人材を配置しています。

また、導入当初と比較すると、基礎学力は県平均を上回り、不登校の発生率は県平均を下回るなど、成果が見られます。



平成 21 年度

平成 22 年度

平成 23 年度

平成 24 年度

平成 25 年度

平成 26 年度

■学校教育審議会から答申

学校教育審議会から、本市の小中一貫教育の在り方について、「義務教育9年間の連続性・系統性に基づいた教育課程」や「確かな学力の向上」、また、「豊かな心の涵養」や「今後の小中一貫教育の形態等」について、答申が出されました。

■小中一貫教育推進室を設置

小中一貫教育をより推進するために、教育委員会学校教育部に小中一貫教育推進室が新たに設置されました。

■小中一貫教育推進委員会各部会での検討(準備委員会から名称変更)

- ・けいかく部会…単元配列表の作成
・まなび部会…八潮 Basic の作成
・こころ部会…生活・学習ガイドの作成
・しえん部会…特別支援教育の在り方

■研究発表

- ・八潮中ブロック(潮止小、松之木小、八潮中)
・八條中ブロック(八條小、八條北小、八條中)

市内初! 八條北小・八條中合同運動会・体育祭の開催

■合同報告会

毎年度末に行われる小中一貫教育合同報告会で、保護者から小中一貫教育へのご意見や感想をいただきました。



H22.3月発行

■小中一貫教育の教育課程を全面实施

小学校3年生から八潮市独自の教育課程を全小中学校で学べることになりました。

■八潮市ジョイント教室の実施

小学校6年生の中学校への不安軽減を目的に、中学校職員による授業や部活動体験など、中学校入学説明会と兼ねて実施しています。

■教職員ジョイント研修

小中の教員が異校種の学校で体験研修を終日行います。

■八潮 Basic の配付

国語と算数・数学の基礎学力問題集です。小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒に配付しています。



■生活・学習ガイドの配付

小学校1年生から中学校3年生までの発達段階に応じ、一貫性のある生活・学習態度を身につけるための目標として作成し、活用しています。



■小学校で新学習指導要領の実施(中学校はH24年度から)

学ぶ内容が充実し、授業時数が増加することで、子どもたちの「生きる力」を育みます。

■教職員夏季合同研修会の実施

これまで学校独自で行っていた研修会をブロックごとに市内で統一し、実施しました。

■全国サミットでの発表

全国に向け、本市の取組を発表しました。

■各部会での検討

- ・けいかく部会…教育課程の課題検討
・まなび部会…八潮 Basic 改訂版の作成
・こころ部会…生活・学習ガイドの有効活用
・しえん部会…個別支援ファイルの活用

■研究発表

- ・大原中ブロック(大曾根小、大瀬小、大原小、大原中)
・八幡中ブロック(八幡小、柳之宮小、八幡中)

■合同報告会

懇談会メンバーがパネリストとなり、「小中一貫教育に期待すること」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



H24.3月発行

■学校教育審議会の開催・諮問(H24~H26年度)

本市の児童生徒数が、鉄道の開通により駅周辺では増加傾向にあり、一方、地域によっては減少傾向にあるなど、市全体では大きな偏りがみられることから、審議会に『八潮市の人口動態を踏まえた適正な学校配置について』諮問しました。

■春休みの課題(まなび部会で作成)を配付

小学校卒業後の学びが中学校につながるよう市内共通の課題を作成・配布しています。入学後、中学校に提出し、確認テストなどを行います。



■各部会での検討

- ・けいかく部会…単元配列表、参観のしおりの作成
・まなび部会…ノート指導モデル、外国語活動学習指導案の作成
・こころ部会…不登校児童生徒の分析
・しえん部会…個別支援ファイルの充実
・特別編集部会…八潮 Basic II の作成

■研究発表

- ・八條中ブロック(八條小、八條北小、八條中)

■はばたき 2012

市内全小中学校で「小中一貫教育授業公開がスタートし、参観のしおりを配付しました。」



H25.3月発行

■学校教育審議会から中間答申の提出

審議や視察を重ね、学校教育審議会から中間答申が出されました。

■八潮 Basic II の配付

国語と算数・数学の応用・発展的な内容になっています。Basic I と同様に、小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒に配付しています。



■各部会での検討

- ・けいかく部会…5ヵ年計画の作成
・まなび部会…外国語活動指導資料作成、春休みの課題見直し
・こころ部会…不登校を生まない指導体制の確立
・しえん部会…個別支援ファイルの充実と活用

■研究指定(~H29年度)

市内全小中学校15校に、5年間の小中一貫教育研究指定を行いました。

■研究発表

- ・八潮中ブロック(潮止小、松之木小、八潮中)

■合同報告会

大瀬小で実施した小中一貫教育保護者アンケートについて、PTA 広報委員の皆さんに発表していただきました。



H26.3月発行

■学校教育審議会から最終答申の提出

学校教育審議会は、『八潮市の人口動態を踏まえた適正な学校配置について』、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備し、学校規模や本市の目指す教育などを念頭に置き、12回にわたり審議を行いました。また、パブリックコメントでいただいた市民の皆さんからの意見も踏まえながら、「子どもたちにとって望ましい教育環境」や「小中一貫教育」、「適正な学校配置」について審議会として意見をまとめ、最終答申が提出されました。

今後は、いただいた答申を基に、児童生徒数の見込みや地域の実情を勘案し、適正な学校配置について全庁的に検討していく予定です。

■学力向上指導員の配置

教職員の指導力向上を図ることに、きめ細やかな教育を充実させ、児童生徒の学力向上につながるために、3校(2小学校、1中学校)に5人の指導員(退職校長等)を配置しました。

注目されています
これまで、本市の小中一貫教育について、北海道から沖縄まで全国各地の自治体から多くの視察がありました。

■各部会での検討

- ・けいかく部会…家庭学習の定着についての検討
・まなび部会…八潮 Basic II (算数・数学)力試しテストの作成
・こころ部会…いじめ・不登校を生まないための取組の実施・検証
・しえん部会…実践校に学ぶ「個別支援ファイル」の活用、情報交換

潮止中学校ブロック(中川小・大瀬小・潮止中)研究発表会

平成26年11月20日に、潮止中学校ブロックの研究発表会が開催されました。研究当初は、中川小学校と潮止中学校の2校での研究を進めてきましたが、通学区の一部変更により平成26年度から3校に変わりました。

本ブロックでは、キャリア教育を教育の柱に据え、学力の向上と豊かな心の育成について研究を進めています。

発表会当日は、小中合同授業や合同児童会生徒会を行い、これまでの研究成果を発表しました。最大の成果として、3校の教職員が「小中学校の文化をお互いの「特色・よさ」として認識し、協働できるようになったこと等が報告されました。

小中合同保健委員会に潮止中ブロックの一員として参加し、生活習慣の見直しについて、皆さんと話し合いをしました。中学生による詳しい説明に、小4の娘にもいずれこのように遅くなってもらいたいと思ひ、とても貴重な体験をすることができました。



保護者の感想

10人

5人

4校

9人

13人

5人

6人

4校

9人

14人

5人

7人

3校

5人

6人

15人

5人

8人

3校

5人

6人

16人

5人

8人

3校

5人

6人

19人

5人

9人

4校

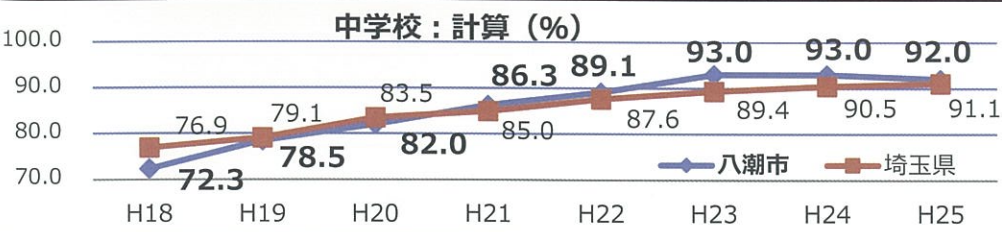
5人

6人

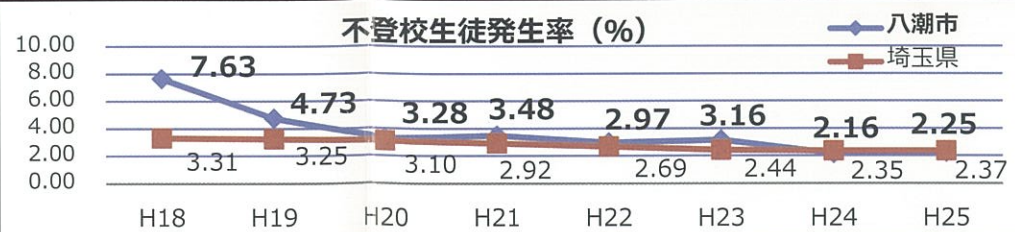
成果と課題

八潮市の基礎学力の定着や不登校児童生徒の減少に一定の成果が見られるようになりました。しかし、平成26年度全国学力・学習状況調査では、小学校6年生の国語・算数、中学校3年生の国語・数学において、全国平均正答率を5ポイント前後下回る結果が出ています。この結果から、基礎的な内容については習得されているものの、特に思考力や判断力、応用力を必要とする課題があります。

また、平日に3時間以上テレビやビデオを見たり、コンピュータやスマートフォンを使ったゲームをしたりすることも、全国平均より5ポイント以上高くなっており、授業改善とともに家庭学習の定着が、学力向上を図る上での課題になっています。



す上行児の動童諸等生問生徒題徒のに指問関導題



平成26年度全国学力・学習状況調査 小学校算数(第6学年) (単位:%) の表。算数B(主に「活用」に関する問題)の八潮市、埼玉県、全国の平均値を示す。

■平成 27 年度の取組

■平成 27 年度の取組

(1) 八潮市独自の教育課程の実施

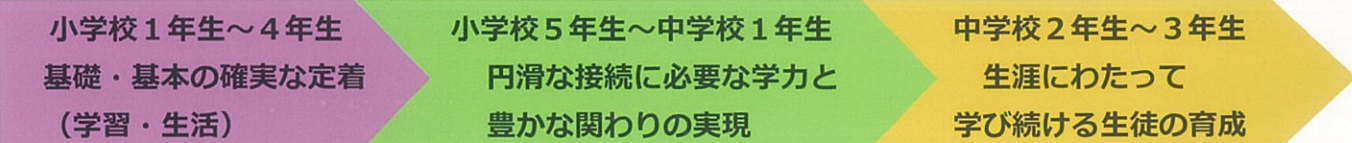
9年間を見通した年間指導計画及び八潮市独自の教育課程（「こくさい科」「えらべる科」「ふるさと科」）に則り、市内全小中学校で実施します。

- ①「こくさい科」は、コミュニケーション能力の育成や望ましい人間関係づくりを目的として、小学校3・4年生で実施しています。
- ②「えらべる科」は、小学校3年生から中学校3年生まで、総合的な学習の時間の趣旨を基本に据え、児童生徒自らが課題を設定し、学習を進めています。
- ③「ふるさと科」は、私たちのふるさと「八潮」の学習を人とのふれあいを通して、各学年の発達段階に応じ、小学校3年生から中学校3年生まで実施しています。

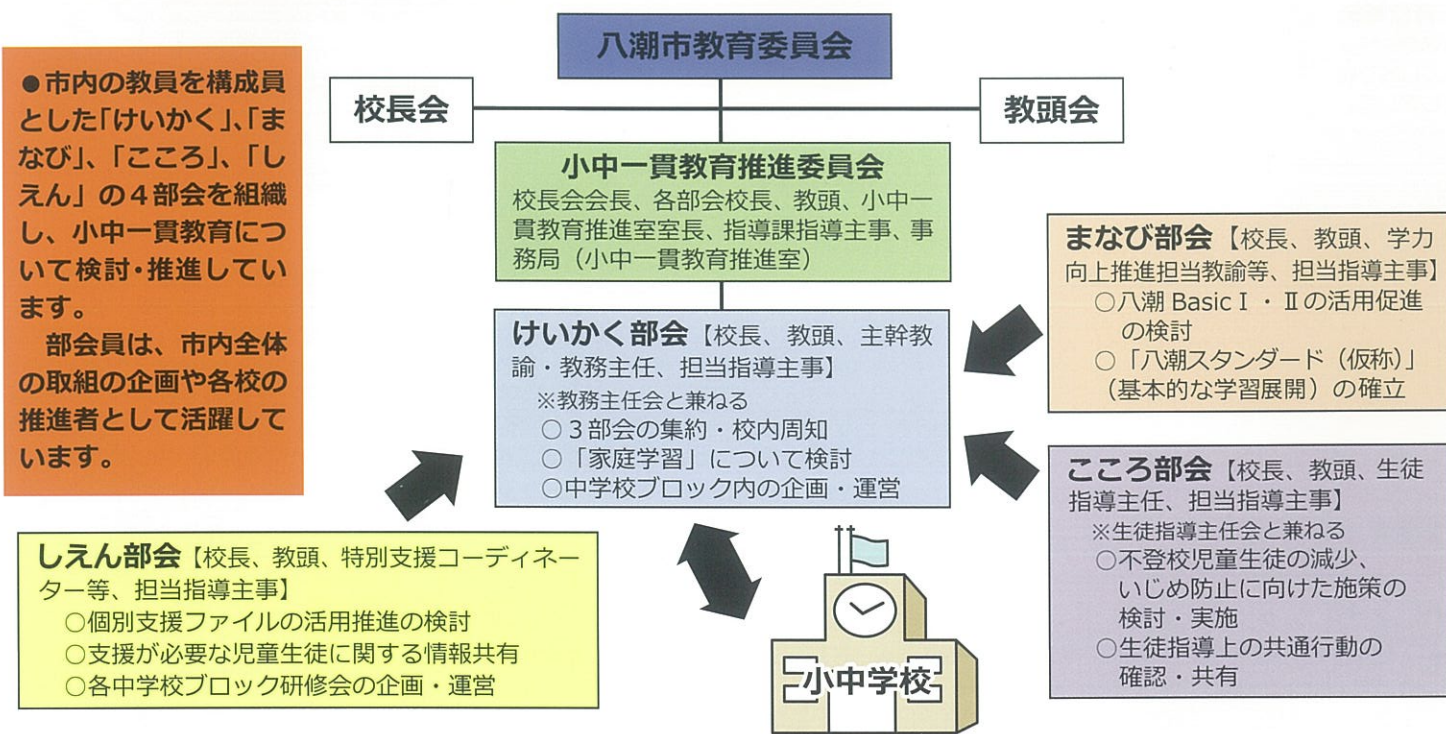
		(単位：時間)		
		こくさい科	えらべる科	ふるさと科
小学校	3・4年生	17	18	35
	5・6年生		35	35
中学校	1年生		25	25
	2年生		35~45	25~35
	3年生		35~50	20~35

(2) 4・3・2制を意識した取組の推進

4・3・2制は、児童生徒の実態に応じ、教職員が学びのくくりとして認識し、指導していくための理念を具現化するものです。特に、小学校5年生から中学校1年生は小・中学校をつなげていくための学びのくくりと捉え、次のことを重視し、指導していきます。



(3) 小中一貫教育の研究（推進体制における取組）の一層の推進



(4) 日々の授業の充実

①小中一貫教育の視点を加えた指導案の作成

「単元配列表」等を参考に指導内容の系統性を意識し、指導案に小中一貫教育を踏まえた指導方針等を明記します。また、「はばたき 2015 授業公開」で配布する「参観のしおり」に、「小中一貫教育の視点」を入れて作成し、保護者の理解を深めます。

②学力向上指導員を配置

学力向上指導員（退職した校長等）を配置し、市内小中学校の若手教職員等の指導・支援を行います。

③授業展開の改善

- 「八潮スタンダード（仮称）」…基本的な授業展開を確立します。  
導入の時間を守り、児童生徒の考える時間、学び合う時間、習熟を図る時間を十分に確保します。
- 「わかる授業」7つの視点を重視した指導を行います。

- 課題とまとめを明確にした板書とノート指導をします。
- 既習事項や生活体験に根ざしたやる気にさせる導入を工夫します。
- 思考力を高める発問をします。
- 学び合いを深める時間を確保します。
- 次時の学びにつなげる評価をします。
- 一人一人に応じたきめ細やかな指導をします。
- 八潮市小中一貫教育「学習ガイド」の活用による授業規律を徹底します。

平成 27 年 4 月 8 日（水）日直（中山、小林）

(5) 子どもが学ぶ楽しさを味わう事業の展開

①「八潮こども夢大学」の一層の充実

大学での体験（模擬）授業を通して、子どもたちに学ぶ楽しさを味わわせ、夢を抱くことや学習意欲の向上を図ります。

②「ジョイスタ（土曜勉強会）」の充実

小学校3年生から中学校1年生までを対象に、基礎的な学習や興味関心を高める特別授業のほか、中学校3年生を対象に公立高校の入試対策授業を行い、学力の向上を図ります。



▲ジョイスタ特別授業

●国の動向

- 政府は、中央教育審議会からの小中一貫教育の制度化等についての答申を受け、小学校と中学校の義務教育9年間のカリキュラムを弾力的に運用できる小中一貫校を制度化する学校教育法改正案を閣議決定しました。（平成 27 年 3 月 17 日）
- 文部科学省は、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を約 60 年ぶりに改訂し、公表しました。（平成 27 年 1 月 27 日）